

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営				
1.理念と共有				
<input type="checkbox"/>	地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らし暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	作っており 常に目に入るところに掲示している。また、1年に1回位の割合で目標を作成している。		
<input type="checkbox"/>	理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝全員で理念を復唱し、理念を元に日々の介護に取り組んでいる。月に1度理念、実際に行なえているか確認している。		
<input type="checkbox"/>	家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族に理念の説明を行い、面会の依頼など促している。また、地域のサロンに出向いた際にはグループホームに関する説明を行なう機会を設けている。		
2.地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	夏祭りを行ない地域の方と交流できる機会を持っている。又、地域の民生委員さんと顔見知りになれるよう地域のサロンに出向いた際は声を掛けている。		
<input type="checkbox"/>	地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のサロンに参加したり保育所訪問などをおこない地元の人々との交流をおこなっている。		今後も地域の保育所や高齢者と交流を持って行きたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域で生活している高齢者の方の相談窓口になれないかなど、話し合いを行なっている。電話相談も受けている。		
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	理解している。前回指摘事項に関して、評価検討を行い、勉強を行なっている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、市役所職員、入居者家族、職員、入居者を交え議題を通してそれぞれの意見交換の場や報告できる場となるよう取り組み、今後のサービスにつながるよう話し合いを行っている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者や市の窓口と連携をとり相談を行なっている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	分からないことあれば精神保健福祉士に相談し把握する。家族会や地域連携推進会議を通して家族成年後見制度について説明をし、家族からの要請があれば活用できるよう支援している。		筑紫野市は成年後見制度の利用に積極的なので、利用者に活用を促して行きたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ワムネットなどを活用することにより、情報を習得している。スタッフ同士でのコミュニケーションを図りながら、お互いの行動に対しきちんと問題提起できる関係を作っている。虐待の行為に関して常に意識を持ち、一人で抱え込んでいる問題はないか話している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだ後、解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時家族にゆっくり契約書を読んでもらい、不安、疑問点などないか尋ねたうえで、十分な説明をおこない、きちんと理解・納得をさせてから契約書にサインをもらっている。契約後も声かけを多く持ち、質問疑問に答えている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関のカウンターには意見箱を設置しそれを一ヶ月に一度開け確認している。意見がある時は全スタッフでカンファレンスし、民生委員へ情報提供している。外部の電話番号も目に付く場所に掲示している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的な暮らしぶりの便りを作り家族にスタッフから直接報告をおこなう。面会の際必ず声をかけ本人の現在の状態など伝えている。緊急を要す場合はこちらから家族へ電話にて報告を行なっている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約時に口頭で説明している。玄関のカウンターに意見箱を設置しそれを一ヶ月に一度開け確認している。意見がある時は全スタッフ、カンファレンスをし、民生委員へ情報提供している。また同じカウンターに行政等の公的な相談・苦情窓口を掲示し面会時積極的に声かけするなどの取り組みがある。又、意見が合った場合は出来る限り反映している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>週に1回直接運営者に話をする機会があり、それ以外はその都度メールにより常にスタッフからの意見が言える体制をとっている。判断後、問題が無ければ反映されている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>努めている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>配慮している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援			
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	配慮している。	
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	人権啓発の配布物など職員はきちんと目を通してしている。	
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	プリセプタ-を作って指導を行なっている。法人内研修が月2回程度行なわれており参加している。法人外の研修もグループホームに関連した内容のものがあれば参加している。	
	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	研修などに参加し、他事業者の話を聞き伝達することで質の向上に努めている。	
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	楽しく仕事ができる環境作りを心がけている。	
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている</p>	勉強する意欲を観察し、講習会などの案内に参加できるように声を掛けている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人の生活状況を把握、本人から話を聞く機会を持ち必要に応じて主治医の意見やケアマネージャと情報交換を行なう</p>	
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の介護力を把握、家族から話を聞く機会を持ち、困っている事などを整理する。必要に応じて主治医の意見やケアマネージャと情報交換を行なう</p>	
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族と本人の相互力の判断を行い、現在利用できる在宅介護は何かをスタッフと話し合い必要な支援をおこなっている。他のサービスの情報を提供している。必要であればその事業所の情報をと家族に紹介している。</p>	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学をしていただく、午前中体験していただくなどを行う。入所後は、本人の得意とすること、好きな物など本人、家族から情報を聞き、負担にならない範囲で取り組んでもらう。また朝の集いで自己紹介を何日か続け、食事時間等会話しやすい場でスタッフ紹介しながら顔なじみになってもらっている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>いろんなことをおこなう際本人だけがするのではなくスタッフも一緒になって行なうようにしている。終日一緒に過ごしている。(例：梅干し作り、蠅叩き作りなど)</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	病院の同伴を依頼したり、面会をなるべく多く行なっていただけよ声かけ、ご本人の状況を一緒に理解しながら支えてもらっている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	ご本人がどのような生活歴があり、どのように御家族と生活していたかを面会の時など尋ね、アルバムなどを利用し理解していく。ご本人が御家族の名前、顔を忘れないようご本人が呼んでいるように呼び、記憶を刺激する。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	民生委員や知人の面会がある。近くに行く機会があれば一緒に出向いている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるよう努めている	様子を見ながらなるべく引きこもらないように、ホールに出向けるような声かけを行なっている。時にはスタッフが介入し利用者同士が支え合える関わりがもてるよう努めている。共同で出来る物を提供している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	何かあればいつでも相談して下さいと声を掛けている。外で顔を見かけたら挨拶を行なう		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>契約時本人と家族に、生活に対する意向や支援についての希望を聞き、その後本人との生活の中で汲み取りを行なっている。1ヶ月に1度は必ずカンファにて状況、希望を把握。家族面会時または電話にて今までの生活の中で本人の一番過ごしやすい環境はどのようなものだったのかその都度聞き、話し合いながら実行している。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>契約時情報紙として生育歴及び生活歴、サービス利用の有無など情報収集し、それを基に本人、家族へ再度確認している。</p>	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎日の記録確認。3ヶ月ごとのケアプラン見直し、本人の状態把握の為に1ヶ月に一度のカンファレンスまた状態変化時のカンファレンスを行ないスタッフ全員が把握してケアできるようにしている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族・本人の意見を聞き、プラン立案後スタッフ間にて発表を行う。他のスタッフからの意見を貰った後、最終作成を行なっている。必ず一人だけの意見で介護計画を作成しないようにしている。</p>	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居後1ヶ月とその後3ヶ月毎のプラン見直しがありカンファレンスを開いている。また援助内容の追加や状態変化等でのプラン変更がある場合は随時話し合い、家族面会時や電話連絡にて家族の思いや意見を聞き介護計画に反映させ、作成している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践 結果、気づきや工夫を個別記録に記入し 情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に介護計画が見られるようにしており 生活記録や申し送りなどを使いながら、項目ごとに情報をパソコンに入力。入居者一人一人の特徴や状況が把握できるようにしている。パソコンの内容と業務日誌をもとに数日間協議しスタッフ間の意志統一と周知を図っている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能型の施設ではないが、面会の時や家族会の際家族に要望などを聞き要望があれば取り入れている。家族の宿泊希望などがあれば応じている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化 教育機関等と協力しながら支援している	筑紫野市の歴史資料館より昔の生活道具など貸し出しを受け、昔の思い出を引き出しながら、お話を聞かせて貰う会を行なっている。マッサージや音楽のボランティア、地域の保育所との交流を行なっている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	週一回ケアマネジャー、医師等と話し合いをしながら状況に応じて必要なサービス支援は何かを考え検討し、支援を行なっている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターの職員が本人の状況を確認にこられたりこちらから訪問し状態の報告を行なっている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内には精神科・神経科・歯科があり、その他は他科受診となる。他科受診はご本人の身体状況などご理解いただく為、御家族にお願いしており、かかりつけ医には血圧表やホーム内での状況を伝え、薬の情報や家族に状態報告し伝達してもらう。又、必要に応じて電話にて情報の共有を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	法人は認知症専門医が多数おり、問題が発生した場合には早急に相談、指示を受けられる体制をとっている。受診前に入居者の状況報告し、受診時スタッフや家族がスムーズに相談出来るようになっている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	何か分からない事や対応できないことがあれば、その都度看護者に報告相談し、対応している。夜間、何かあった時は法人内の看護者に気軽に相談している。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時はスタッフが交代で面会に行き、状況を確認したり主治医や病棟看護師と情報交換を行なっている。家族から状態を聞き、必要に応じて、入院先の病院と協議を行い、注意点など聞きながら早期退院に向けた支援をしている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や本人の意向を確認した後、スタッフ全員で検討しながら、意見を統一し、医師、家族などと何度も何度も話し合いを繰り返し方針を共有している。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をよ！良！暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	持病がある人は特に、早い段階から「出来る事出来ない事」を見極め、かかりつけ医や家族も含め今後のことなど十分に話し合いを行なっており、支援している。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退去するに至るまで、退居先を家族と共に探し、本人に見学を何度か行ってもらい、家族や医師を交えて十分な話し合いを重ね、納得してから退居していただいている。緊急の入院の際はスタッフが面会に出向いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者の言行動を尊重し優しい言葉かけ、傾聴、見守る等入居者の負担とならないさりげない対応がある。声かけの際はきちんと名字で呼ぶ等気を付けている。</p>	
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたい納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日々の洋服選びや外出時のメニュー選び、外出先の希望など生活のあらゆる面で希望を聞く支援があり本人が混乱しないように話し方に工夫している。</p>	
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>テレビを観る方、縫い物や読書される方など入居者のペースや希望に合わせて支援している。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>馴染みのある衣類を家族に持参してもらい、化粧品やマニキュアなどを提供し、おしゃれできるよう支援している。また訪問理美容を利用したり、馴染みの美容室に行くなど、入居者の希望にあわせた対応がある。</p>	
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の注ぎ分け、下膳、食器洗いなど入居者ができることをサポートし、一緒に食事をとることで好き嫌いや食べ方等把握している。時間に追われず自分のペースで食事でき、時に自然な会話などが楽しめるような環境を作るなど行なっている。</p>	
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>スタッフ付き添いで買い物に行き、好きなおやつ等を購入している。時に、特別な飲み物おやつ等は、家族に依頼し面会時持ってきてもらっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人が出来る限り自立出来るように、排泄チェック表にその都度記録を行い、排泄パターンをつかみ、それに基づき評価、トイレ誘導時間や下着が着用できないかなどの検討を行ない、計画立案・支援を行なっている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間や曜日は特に決めてはいない。但し心疾患や高血圧で大体の曜日が決まっている方もいるが、希望があればその日の体調などを見て入浴を行なっている。希望者には毎週日曜日にある温泉の利用も行なっている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	玄関に椅子、リビングにソファ、ベランダにはベンチを置き、好きな時に落ち着く場所で休息できるよう配慮している。昼寝を促したり、夜間寝付けない入居者に対しては話しを傾聴したり一緒にテレビを観るなど安心感を感じれるように対応し、入眠へ促している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	草むしりが得意な方、大家族の中で過ごし片付けを得意とする方、裁縫や細かな手作業を得意な方などいらっしゃるため、その方々に合った役割を作り出し、スタッフ間で情報交換しながら支援を行なっている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人にお金は持ってもらっている。買い物の時事前に金額は分かっている場合は、早めに財布から準備をしてもらう。直前の場合は、金額を入居者に知らせ、一緒にレジで確認しながら払いレシートを必ず財布に入れた貰っている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の状態やその日の希望により散歩や買い物、クリーニング出しなど外に出る機会を積極的に設けている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	公用車を利用して買い物に行くことや年に5～6回程外出、外食できる企画を立て実践し、また家族に家や馴染みの場所へ連れて行っていただけるよう面会時等に声かけし、外出する機会を設けるなどの取り組みがある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人等入居者が電話したいとの希望あれば付添い、電話できるよう支援し自分で行なえる人は見守るように配慮している。また日々の生活の中で文字の練習に取り組んでいる。毎年賀状の希望を取っている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	毎月健康保険証を家族に持参していただく事により、最低でも月に一回の面会の機会を確保する取り組みがある。また会話が楽しめるよう椅子を提供したりお茶を飲んでもらったりと居心地よく過ごせるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についてマニュアルがあり、身体拘束ゼロへの手引きについて協議し、身体拘束について正しく認識しており、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は自由に出入りできる。入居者の行動を観察しその都度声かけや一緒に出かけるなどの対応を行なっている。状況に応じやむを得ず施錠する場合は、スタッフ、包括支援センター職員、医師、看護師などと協議を重ね、その根拠や理由を家族や入居者に説明し、同意を得ている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は必ずスタッフがホールに居り、一つのこと集中しすぎず周囲に配慮しながら様子をみている。夜間はホールに必ず居り、排尿に向いたり、部屋の状況が分かるようにしている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	カンファレンスにより入居者が管理できる状態と判断すれば、居室にて管理してもらうようにしている。その際危険物になる物で何を持っているか明確にわかるようカルテに物品名を記載したメモを貼り、一日1度は居室の中を確認し把握している。包丁は夜間鍵がかかる所に片付けている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれの対応マニュアルある。避難訓練は年2回行い練習を行なっている。RMレポートで事故内容や対応策をスタッフが把握できる体制であり、発生の多発する時間帯、人の把握を行なっている。報告書発生時はカンファレンスで協議・検討し、法人全体で月2回協議を行なっている。転倒はアセスメントシートで評価後、意識を持って介護を行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	意識消失や誤嚥、痙攣発作時の対応マニュアルがあり、スタッフ同士のシミュレーションを行なって、慌てず対応できるような配慮がある。法人内の研修で訓練を行なっている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防の方に来てもらい防災訓練を行い消火訓練や避難経路などの確認を行なっている。夜間想定や日勤想定での避難訓練、緊急連絡の訓練がある。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	契約時、転倒に関するリスクや、生活上起こりうる危険性について本人、家族に説明している。入居後、生活していく上で一人一人に起こり得るリスクをカンファレンスし、統一した意見のもと家族面会時などに伝えている。家族と共に本人に負担の少ない対応策を見出すよう努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日本温、脈拍、血圧を測定。体調の変化や異変に気付いた場合は状態や情報を確認し、看護者へ報告した後、家族に状況報告し他科受診できるよう手配する体制である。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の薬品情報提供書によって薬の目的や副作用、用法等を把握している。薬の変更時は、看護者に特に注意することなどを確認し、業務日誌に記載するなど情報を共有。症状の変化等について注意し、カンファレンスを行なっている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	腹部マッサージ施行や看護者に腹部の音を確認、散歩や飲水を多くとるように心がけている。便秘3日以上にならないように意識を持ち、入居者に応じて便秘2・3日目では便秘薬服用を促すようにしている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の声かけや誘導、見守りが行なわれており、口腔内の清潔保持に努めている。また本人痛みを訴えた際は、義歯調整が必要な場合は、歯科へ受診している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はカロリーや栄養面でのバランスを考えて専門の業者へお願いしている。食事摂取量をチェックし月1回体重測定を行ないながら、本人の状況を把握している。水分摂取は食事時、おやつ時間のほか入浴後など入居者の状態に応じて声かけ促し水分不足にならない様心がけている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する対応マニュアルがあり、スタッフはマニュアルに準じて実行している。インフルエンザの予防接種を早目に行なう。食事の準備や外出後には手を洗う。感想の季節は湿度を保つよう努力している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理に関しては業者に委託しているものの、食品に関しては余分な食品は保存せず、生鮮食品は毎日配達されている。布巾やまな板は毎日漂白剤で消毒し、包丁は除菌スプレーを使用するなど、衛生管理に関する取り組みについて把握している。また、お土産などの生ものがいつまでも部屋に置かれないように、ものの把握を行なっている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	併設事業所との複合施設ではあるものの、建物の出入りに緑や季節の花を置いたり、ホーム出入口には木の格子を用いるなど、違和感なく気軽に入れるよう心がけている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないよう配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム出入口には木の格子を用い、玄関ホールの照明は白熱灯を使用している。リビングにはテーブルと椅子、ソファを配置し、所々緑や季節の花物を飾り、日差しはカーテンで調整するなどの配慮している。BGMやテレビの音量は会話の邪魔にならないよう配慮している。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにテーブルと椅子とソファを置き、テレビ前にテーブルや椅子。ベランダや玄関ホールに椅子やベンチを置き、入居者同士会話したりテレビを観たりと、落ち着いた場所で思い思いに過ごせるよう配置している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には飾り棚や仏壇、冷蔵庫、写真、使用していた布団など使い慣れたものや馴染みの物を持ってきていただくように声を掛けている為、一人ひと異なる雰囲気がある。		
86	換気 空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓の開閉や換気扇を用いた換気、クーラーの温度や風量、風向の調節などその時々状況に合わせた対応を行なっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩きやすいようこの空間も壁とテーブルや椅子の間を広くにとり、歩行の邪魔となるものは置かないようにしている。壁にはつたえ歩きできるよう手すりを設置している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日々の洋服選びや外出先の希望など生活のあらゆる面で希望を聞いている。また食事の注ぎ分けや下膳、食器洗い、テーブルふき、洗濯など日常生活の色々な工程の中で入居者が出来る所は自分の力でこなしてもらい、混乱しそうだと感じられた場面から上手に介入する工夫をしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるように活かしている	建物の外は庭になっており、そこにプランターを設置して園芸ができるようにしたり、天気の良い日にはテーブルと椅子を持って昼食を食べたり散歩したりしている。玄関先には大きな畑があり、活動できる環境を心がけている		

.サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の 2/3 くらいの
			利用者の 1/3 くらいの
			ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/3 くらいが
			利用者の 1/3 くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/3 くらいが
			利用者の 1/3 くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/3 くらいが
			利用者の 1/3 くらいが
			ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/3 くらいが
			利用者の 1/3 くらいが
			ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/3 くらいが
			利用者の 1/3 くらいが
			ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の 2/3 くらいと
			家族の 1/3 くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
		<input type="radio"/>	たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くない
100	職員は、活き活きと働いている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての職員が
			職員の 2/3 くらいが
			職員の 1/3 くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/3 くらいが
			利用者の 1/3 くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族等が
			家族等の 2/3 くらいが
			家族等の 1/3 くらいが
			ほとんどできていない

【時に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「懐かしい思い出の会」という回想法ではないが、それに近い感じの活動を行なっている。週に2回（現在は火・金曜日）実施しており、内容は筑紫野ふるさと館よりその時の季節にあった明治、大正、昭和のいずれかの時代に使用したであろう物品や行事ごとのパネル等貸していただき、入居者全員とスタッフ数名で1～2つの物品を囲んで使い方やその時の状況など個人個人から話してもらい、その当時のことを教えてもらいながら昔を懐かしみ記憶を思い出してもらおうという会である。現在金曜日には2グループに分け少人数のグループで入居者の居室で行なってみたりメンバーを時に変えてみたりし、入居者の意外な一面を発見できる場の一つともなっている。会を行なった後は必ず反省会を行ない、入居者の反応や気になった点など話し合い次の会や生活状況につなげていけるよう取り組んでいる。